

子供の実態分析

「教員の見取り（授

業中の姿・ノート・作品等）・経験 × 教育データ」で捉える。

子供の実態については、授業における学習の様子やノート、作品、発言記録等から日常的に把握するより測定できるのは学力の一部分であり、学校の教育活動の一側面ですが、データの活用により、研究することで、研究がより子供の実態に即したものになっているか検証しています。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査結果

<教科に関する調査>

	国語	算数
概要	○全国・県の平均正答率を大きく上回る状況	○全国・県の平均正答率を大きく上回る状況
成果	・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりする」設問の正答率が高く、伝えたいことを明確にする表現の指導の成果といえる。	・「表から必要な数値を読み取って式に表し、判断する」設問の正答率が高く、統計的な問題解決と生活とのつながりを捉えた指導の成果といえる。
課題	・無解答率は、14問中10問で全国平均より高く、粘り強く学習に取り組むことに課題のある子供への支援に課題がある。	・正答が14問以上の子供の割合は、全国より10ポイント以上高いが、7問以下の子供の割合は全国より3ポイント弱低い。学力の2極化の傾向に対応する必要がある。

<学習・生活に関する児童質問紙調査>

質問項目・回答結果(概要)	実態を踏まえた指導の方向性
「自分には、よいところがあると思いますか」 ・約83%の子供が「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答。全国平均をやや下回っている。	・「先生はよいところを認めてくれている」と感じている子供の割合は高い。自分のよさに自信がもてない要因について分析して支援を工夫する必要がある。
「将来の夢や目標を持っていますか」 ・約51%が「当てはまる」、約20%が「どちらかといえば当てはまる」と回答。全国平均を下回っている。	・自分の夢や目標について考えるきっかけとなる取組を充実させるとともに、日常的に夢や目標について語り合える学校・学級の雰囲気の醸成に努める。
「国語、算数、理科、英語の勉強は好きですか。」 ・「当てはまる」と回答した子供の割合（昨年度）…国語：15%（19%）、算数：38%（25%）、理科45%（昨年無し）、英語36%（40%）	・昨年度同様に、「教科の勉強が好き」と感じている子供の割合は低く、その要因として、主体性が尊重されていなかったり、学習に対する成就感を味わっていなかったりすることが考えられる。

とともに、全国学力・学習状況調査と学校独自アンケート調査の結果を分析して捉えています。調査にの成果と課題をより明らかにすることができます。また、子供の学習・生活状況や意識を継続的に捉え

◆令和6年度 学校独自アンケート調査 -4月,9月,2月に実施-

項目	20項目の質問の内、9項目を抜粋 (学年に合わせた言葉で質問。以下、高学年)	4択の内「している(当てはまる)」と回答した割合(%)		
		低学年	中学年	高学年
1	授業の中で、「どうして?」「なぜ?」と思うことを自分から調べたり、考えたりしていますか。	55.3	35.6	28.2
2	生活の中で、「どうして?」「なぜ?」と思うことを自分から調べたり、考えたりしていますか。	42.1	37.3	31.0
3	学習している途中で、自分の学習がどれくらい上手に進んでいるか振り返ったり、他によい方法がないか考えたりしていますか。	43.9	37.1	23.0
4	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。	46.0	44.9	40.9
5	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	38.4	41.5	32.6
6	学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。	49.1	52.3	39.5
7	授業で興味をもったことや、さらに学びたいことについて、家でも調べたり、挑戦したりしていますか。	40.4	44.8	30.1
8	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	40.4	46.4	36.9
9	学校に行くのは楽しいですか。	61.4	72.2	63.6

【アンケート分析】

- ・項目1,2を比較すると、「授業」より「生活」の中で「疑問に思ったことを自分から調べたり、考えたりする」児童が多いことが分かる。授業の中での課題が自分の問題意識とずれていることが要因として考えられる。
- ・項目3において、「している」と回答した高学年の子供は23%に留まっている。多様な学習方法を示し、自分で学習を調整できる工夫が必要である。
- ・項目7をみると、授業で興味をもったことや、さらに学びたいことについて家でも調べたり挑戦したりする子供の割合が中学年になると増加している。発達の段階に応じた学びの発展について考えていく必要がある。
- ・項目9について、「学校に行くのが楽しくない」と回答している子供を捉え、その要因を探り、継続的に支援する必要がある。

【研究主題】子供が創り出す学びの実現

「○○科の勉強が好き」、「自分から進んで取り組んでいる」と、自分のよさに自信をもって、夢や目標を膨らませていく子を育みたい。

研究主題・研究仮説・研究内容

【研究主題】 子供が創り出す学びの実現

【「子供が創り出す学び」とは】

<子供が原動力を生み出す>

- ・子供が自ら問いや願いをもち、自分なりの学習の見通しをもって歩み出している。

<子供が自分の学びを調整し、粘り強く学び続けている>

- ・子供が教科の見方・考え方を働かせ、自分の学びが最適となるよう調整しながら粘り強く取り組んでいる。

<子供が自己肯定感を高める>

- ・子供が自分の学びを振り返る中で、新たな自己を発見したり、自分らしさを丸ごと受け止めたりして、自己肯定感を高めている。



「オーケストラについて自主学习で調べて指揮をやってみたかった。どきどきしたけれど、進んで挑戦できてよかった。」

【研究仮説】

- ・子供が自ら問いや願いを生み出す活動を充実させ、自分らしく追究することができる単元・題材を構想すれば、子供は原動力を生み出す。
- ・教科の見方・考え方を働かせ、自己選択・決定できる環境を構成すれば、子供は自分の学びが最適となるよう調整しながら粘り強く学習する。
- ・子供が新たな自己を発見したり、自分らしさを丸ごと受け止めたりできる振り返りを継続的に行えば、子供は自己肯定感を高める。

【研究内容】

I 子供が自ら問いや願いを生み出すことができる活動

II 子供が自分らしく追究する歩みを大切にした単元・題材の構想

III 学習活動について

- 1 子供が自分らしく追究していく場の在り方
- 2 子供が自己肯定感を高める振り返りの在り方

各教科部テーマ

教科	テーマ
国語科	言葉がもつよさを自覚し、よりよい言語生活を創り出す子
社会科	社会生活の意味を追究し続け、社会への関わり方を考えようとする子
算数科	問いを見いだして追究し続け、事象を数学的に解決していこうとする子
理科	自然の事物・現象について、自ら科学的に追究し続ける子
音楽科	音や音楽に主体的に関わりながら感性を育み、豊かに関わり続ける子
図画工作科	感性や想像力を働かせて、よさや可能性を見だし、つくりだす喜びを味わう子
家庭科	よりよい生活を求め、主体的に家庭生活と関わり続ける子
体育科	運動の楽しさや喜びを実感し、運動と関わり続ける子
英語科 (外国語活動含む)	どんな目的や場面、状況等でも、自他を尊重し、英語で自分を表現できる子
特別の教科道徳	自己を見つめ、他者と共に、よりよい生き方を求め続ける子
特別支援教育	豊かな人生に向かって、自分らしく学び続ける子

<授業研究会の改善 ～授業力の向上と働き方改革の両立～>

今年度より、授業研究会の在り方を以下のように改善しました。ICTを有効に活用し、限られた時間の中で、個々の教員の課題の解決につながるように工夫しました。

一人一人の教員が、主体的・自律的に研修し、笑顔で自信をもって授業に向かうことを目指しています。



■探究型の「授業研究会」へ

【課題の設定】

- ・自分の授業の問題点を見つめ、課題を立てる。

【情報の収集】

- ・研究授業や研究会から情報を集める。

【整理分析】

- ・自分の授業の改善点を明確にする。

【まとめ・表現】

- ・自分の授業の改善の方向性を報告する。

【振り返り・改善】

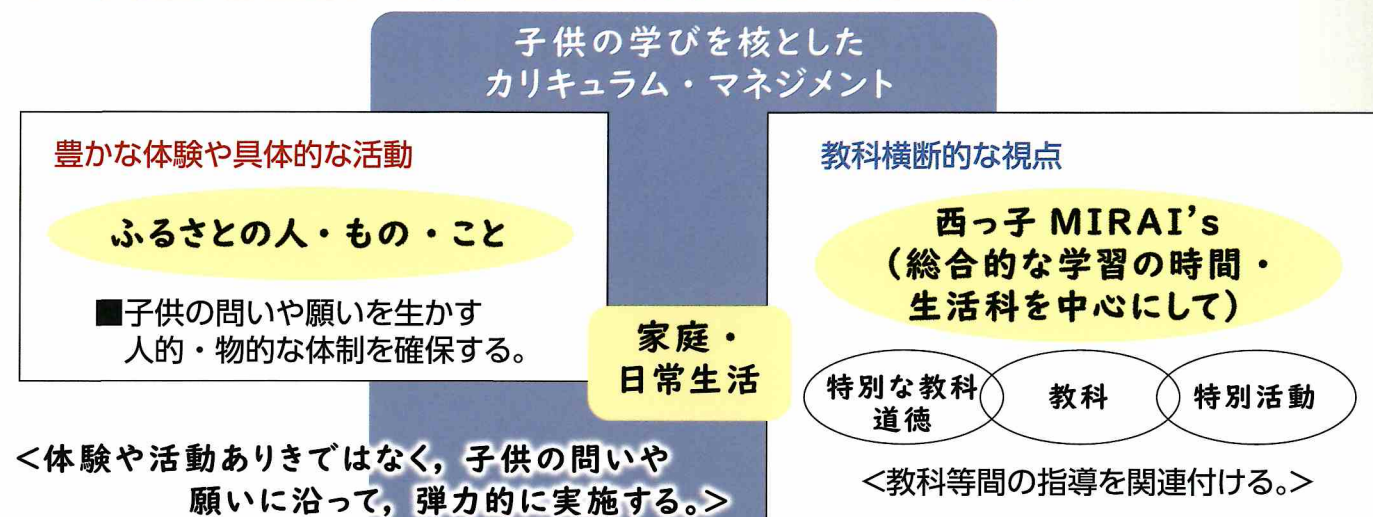
- ・普段の授業実践につなげる。

【授業（全校）研究会の進め方】

- 1 授業者の自評
- 2 公開授業のよかった点と改善点をロイロノートに記入して、意見を共有
- 3 対話による授業改善アイデアの明確化
・研推が示した観点に沿って、グループで協議
- 4 対話による自分の授業の改善点の明確化
・「子供が創り出す学びの実現」のために大切なことは何か…抽象化して応用可能なものに
・明日からの授業で試みたいことは何か
- 5 全体のまとめ、指導・助言

実践研究・事例

I 子供が自ら問いや願いを生み出すことができる活動



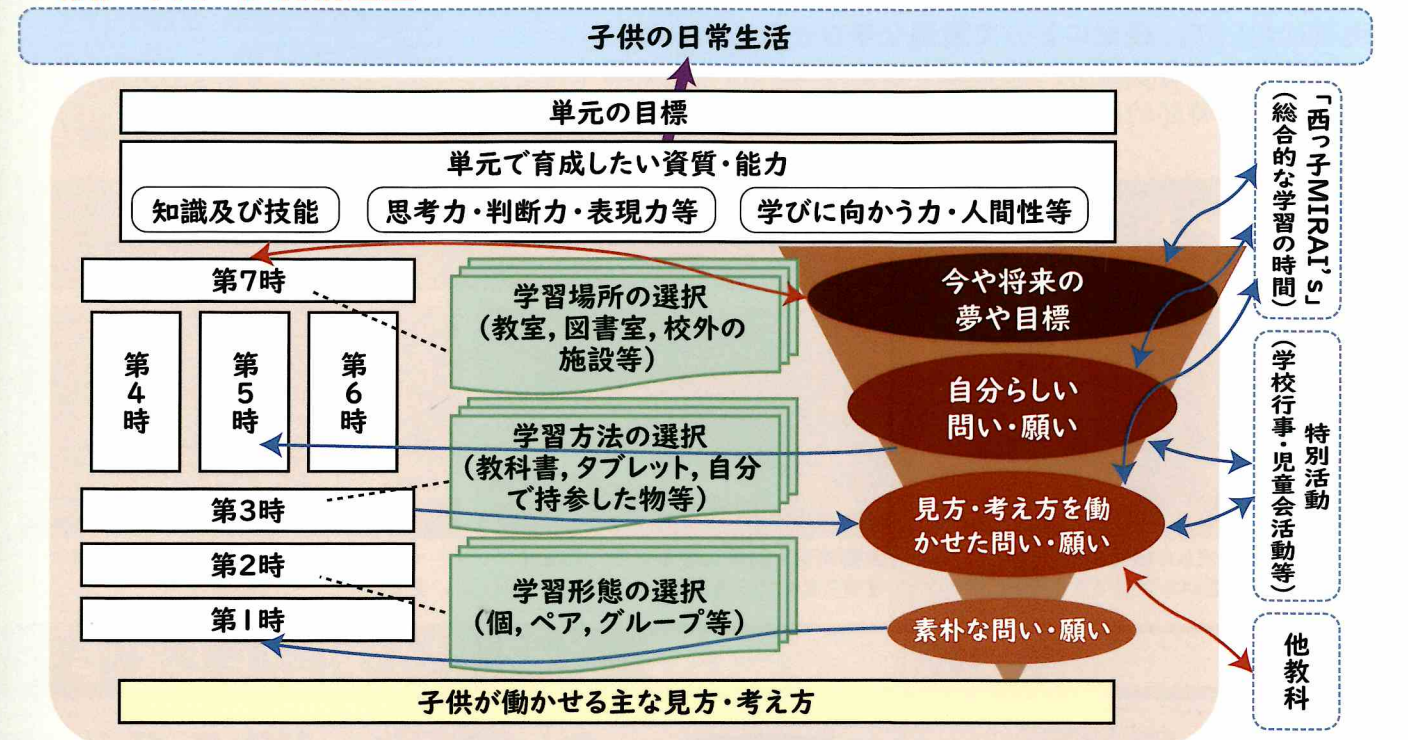
西っ子MIRAI's「私たち『FC岐阜応援隊!』」(3年生→4年生)



II 子供が自分らしく追究する歩みを大切にした単元・題材の構想

単元を構想するに当たり、「①子供の問いや願い」「②最適となる学びの選択・自己決定」「③各教科等における見方・考え方」の3つの要素を大切にしています。

<(例) 単元・題材構造図>



体育科「アーティスティックマット」(5年生)

